

関係者各位

ういどさり代表

大石 麻未

「ことばのバリアフリー」
やさしい日本語の活用提案書

「やさしい日本語」とは
<p>➤ 日本語初学者にもわかりやすいように語彙や文法を調整した言葉</p> <p>➤ 漢字表記には仮名をふり、難しい語彙は、わかりやすい言葉に置き換える。</p> <p>➤ 「はさみの法則」東京外国語大学 荒川洋平教授提唱</p> <p>㊦はっきり言う、㊧いごまで言う、㊨じかく言う</p>
導入の必要性
<p>多様化する訪日外国人の国籍のなかで、やさしい日本語を導入することで言語にとらわれず、在住外国人、インバウンド、すべてに対応可能な多言語システムを構築することができる。</p> <p>相手のステータス、語学レベルに応じて様々なツールを併用することでコミュニケーションが可能。(別添1)</p>
既存事業で考えられる課題
<p>【多言語音声翻訳アプリの弱点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 言語によって精度に差がある ● ネイティブ表現に対応していない ● 主語、述語がはっきりしない会話では誤訳が生じる場合がある ● 話者が日本語の特有の謙譲語や尊敬語を使ってしまった際に誤訳が生じる <p style="padding-left: 40px;">例「今日はどうされましたか？」×</p> <p style="padding-left: 40px;">「今日はどうしましたか？」○</p> <p style="padding-left: 40px;">「今日は何をしたいですか？」◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長文、専門用語を交えると翻訳が対応しきれていない ● 相手が本当に理解できる翻訳文なのか確認が不可能 <p>【解決方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーションだけに頼り切らない <p style="padding-left: 40px;">相手との共通言語（やさしい日本語）を見つけコミュニケーションが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話者にもテクニックが必要（やさしい日本語、基本的な日本語の特徴を知る） <ul style="list-style-type: none"> ・ 主語、動詞、目的語を明確に ・ 出来るだけ短い文章で ・ 敬語表現などは使わない

<p>やさしい日本語と多言語音声翻訳アプリ「UD トーク」を併用することで翻訳精度は格段にあがる。やさしい日本語は、コツさえつかめば誰でも使用することができる為、周知、教育が比較的簡単にできる。</p>	
<p>高松市での具体的導入提案</p>	
<p>～二方向からのアプローチ～ [予算0円、時間と労力さえあれば可能なもの]</p>	
①	<p>やさしい日本語の基本知識を身につけるための人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 使用方法の周知（マニュアル等の作成など） ● 人材育成（研修、勉強会など） ● 外国人が多く利用する部署には最低1名やさしい日本語を心得た人を配置（この人が他の職員に研修を行う。）
②	<p>HP 等の電子媒体でやさしい日本語の記事、お知らせを作成</p> <p>例：ごみの捨て方。転入届の書き方、国民保険などの行政手続き。観光案内など</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電子媒体であれば、必要な時には印刷してガイドブックとして使用可能。（パンフレットを作る必要なし） ● 在住者の多くは、ひらがな、カタカナを読むことができる。漢字に仮名をふるだけで本人たちは読むことができるようになり、自身で意味を調べることが可能。 ● 母国語に翻訳した場合、各言語に翻訳しなければならず莫大なコストがかかるが、やさしい日本語は共通して使用可能。日本語0レベルの外国人には多言語翻訳アプリと併用することで対応可能。
<p>他の機関での「やさしい日本語」導入例</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ NHK ワールド日本「やさしい日本語で“今週の日本”」 ➤ 福岡県柳川市の取り組み「やさしい日本語ツーリズム」 ➤ やさしい日本語ツーリズム研究会の各自治体への講演活動 	